

令和7年1月29日（水）開催 第2回民俗資料収集・保存方針等検討委員会

【概要】

1. 日時・場所

- 委員視察 旧郡山土木事務所 12:20~13:20
民俗博物館本館収蔵庫及び館外プレハブ等 14:10~15:30
- 検討委員会 民俗博物館内会議室 16:00~18:00

2. 出席者

(民俗資料収集・保存方針等検討委員会委員)

国立民族学博物館教授 日高委員長
鳥取県立博物館主任学芸員 榎村委員
国立歴史民俗博物館研究部特任助教 川邊委員
大阪経済大学経済学部教授 下山委員
京都芸術大学名誉教授 伊達委員

(奈良県)

毛利地域創造部長
古川民俗博物館長
杉村文化財課長
事務局(奈良県文化財課、民俗博物館)

3. 委員からの主な意見等

- ・県立博物館として重厚な資料を収集保管されていることに感心した。
- ・資料の情報が不足しているものも多く、整理上の課題である。
- ・旧郡山土木事務所は日差しが入り込んでいるなど、一部保管環境が良くない点もあるが、使用当初はさまざまな工夫を凝らし、保存環境を整えようとしていた痕跡が見受けられ、その努力が引き継がれなかったことが見受けられる。
- ・本館は温度湿度管理ができていないとのことだが、モニタリングの結果を見る限り、大きな問題ではない。
- ・奈良大学の学生と連携して整理をしていることは良いことである。
- ・現時点で整理の進捗は芳しくないとのことで、効率的な整理方法について、意見交換をする必要がある。
- ・博物館である以上、収蔵能力の向上は博物館のタスクである。
- ・収蔵能力を考慮した収集は博物館として当然のこと。
- ・除籍の詳細はマニュアルで規定し、方針とマニュアルで一体として考えるべき。